

「お札について」

泉小学校 5年 板井 優奈

日本のお札について調べよう。 板井 優奈

お札の特長

お札は正式には「日本銀行券」という。

- どこでどれくらい作っているのか？

お札は国立印刷局が作っている。国立印刷局が日本銀行に納入するお札は、現在、年間約30億枚。お札の厚さが約0.1mmなので、30億枚を積み重ねると約300kmで、富士山の高さの約80倍の量になる。

- お札の寿命について

一万円で平均4〜5年、五千円と十円は使用頻度が高く傷みやすいので、〜2年程度。少しずつ傷んでいくため、新しいものを製造する必要がある。

- 特殊な用紙について

みつまち(和紙の原料)、アバカなどが原料。お札は人の手で扱われ、機械に通これ、水にぬれることもあるので、強い耐久性が求められる。さざれにくいことも重要なので、「さざれ」が入っている。

過去に発行されたお札

- 昭和59(1984)年〜平成19(2007)年
福沢諭吉 裏にはさじ。
- 新渡戸稲造 裏には富士山。
- 夏目漱石 裏にはつる。
- 昭和44(1969)年〜平成6(1994)年
岩倉具視 裏には富士山。
- 昭和38(1963)年〜昭和61(1986)年
伊藤博文 裏には日本銀行。
- 昭和33(1958)年〜昭和61(1986)年
聖徳太子 裏には彩紋。
- 昭和32(1957)年〜昭和61(1986)年
聖徳太子 裏には日本銀行。
- 昭和28(1953)年〜昭和49(1974)年
板垣退助 裏には国会議事堂。
- 昭和26(1951)年〜昭和46(1971)年
岩倉具視 裏には富士山。
- 昭和26(1951)年〜昭和33(1958)年
高橋是清 裏には日本銀行。
- 昭和25(1950)年〜昭和40(1965)年
聖徳太子 裏には法隆寺夢殿。

現在のお札

- 福沢諭吉 (日本に西洋文明を伝えた教育者。外国に渡って見聞を広め、今の慶応義塾大学をつくり、「学問のすゝめ」などを書いた。)
- 樋口葉子 (女性の職業作家がまだない時代に、自ら作家の道を開いた。文学を通して女性の地位向上につくしたのがお札に選ばれた理由。)
- 野口英世 (不自由な左手を治してもらったことで、医学の道を志した。病気の原因となる細菌やウイルスを研究し、ノーベル賞候補にもなった。表は沖縄の首里城。)

2024年からお札の人物が変わる!

- 一万円札 渋沢栄一 (1840年〜1931年)
日本で初めての銀行や、たくさんの企業の設立に関わった実業家。経済の教育や、社会事業活動に力を尽くした。
- 五千円札 津田梅子 (1879年〜1929年)
1871年に日本初の女子留学生として職でアメリカへ、帰国後、女子の教育に力をつき、今の津田塾大学のもとをつくった。
- 千円札 北里柴三郎 (1853年〜1931年)
病気予防の発展にこころをこめた医学者。感染症の研究としてペスト菌を発見し、「日本の細菌学の父」とよばれた。

⑤ お札に人物の肖像を使うのは、皆に親しみやすくすると、複製権や肖像画の写しにくさという理由があることが分かった。今までに17人の人物が使われていて、聖徳太子が何回も使われている。何となく人の顔が調べてみたい。お札を年間30億枚も作っているのがびっくりした。お札を大切に使うようになりました。

調べた理由は、以前、先生が社会科の学習で5円玉の意味について学習した時に、みんなにお札の画像を見せてくれたからです。

お札の画像の中には、今までに17人の人物が使われていて、その中でも何回も使われている人物がいることにびっくりしました。